

たはら History Inquiry Club 歴史探訪 クラブ 其の87

まぼろしの古窯、渥美窯6
〜絵画文の壺のなぞ〜

渥美窯が成立した12世紀より前は、焼き物の形や、それを飾る文様については、常に中国から影響を受け、中国製品を輸入したり、積極的にコピーしたりしていました。焼き物の文様は、中国的なモチーフ以外は、いたずら書き、まじない用の単発的な絵が器に描かれた場合が多かったのです。



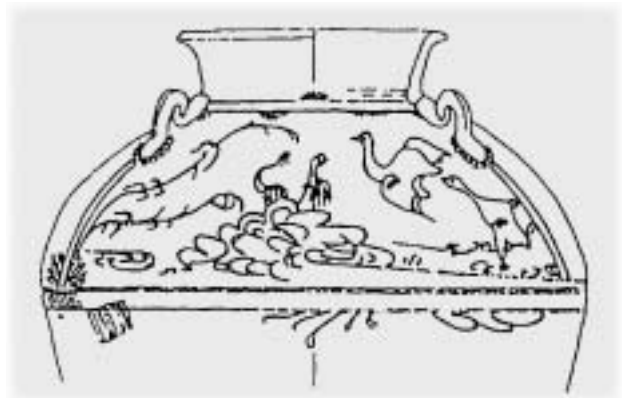
大アラコ古窯で見つかった紅葉文の壺

日本的な絵画の種類としておなじみの花鳥画。この花鳥画は、もとも奈良時代以降に中国を経て日本にもたらされた古代ペルシャの楽園の思想が、その根底にあるとされています。このパラダイスの思想を表す花鳥画の文様が、平安時代に日本的な好みを加えながら和様化し、変化していったものが、秋草文壺に代表される文様です。このような、さまざまな日本のなモチーフの文様を焼き物に刻んでいたことは、他の追随を許さない渥美窯の特長でした。



田原市惣作古窯出土 ざれ歌の碗

平安時代の終わり、磁器生産の技術を持たない日本製品が中国製品に対抗するために考えられたのが、自然な風合いの焼き物の肌、そ



重要文化財 草書文壺の文様

れに美しい日本情緒あふれる楽園風景を描くことだったのでしよう。しかし、渥美窯の中国製品への果敢な挑戦は残念ながらうまくいかず、その後は、古瀬戸に代表される中国のコピー製品が、もてはやされるようになっていきました。

このような文様は、都の美的センスにあふれています。その文様を理解し、それを表現できる技術を持つ人が携わっていたからこそ、渥美窯ではこの焼き物を作ることができたのです。しかし、このような都から離れた地で、いったいそれらの人たちをどのように手配したのでしょうか？ また、それらを提供する流通ルートはどうなっていたのでしょうか？ なぞは深まるばかりです。(増山)

文化振興課

23局3635 FAX 22局3811



しぎのもり 鳴森古窯出土の絵画文 (文様がくずれています)